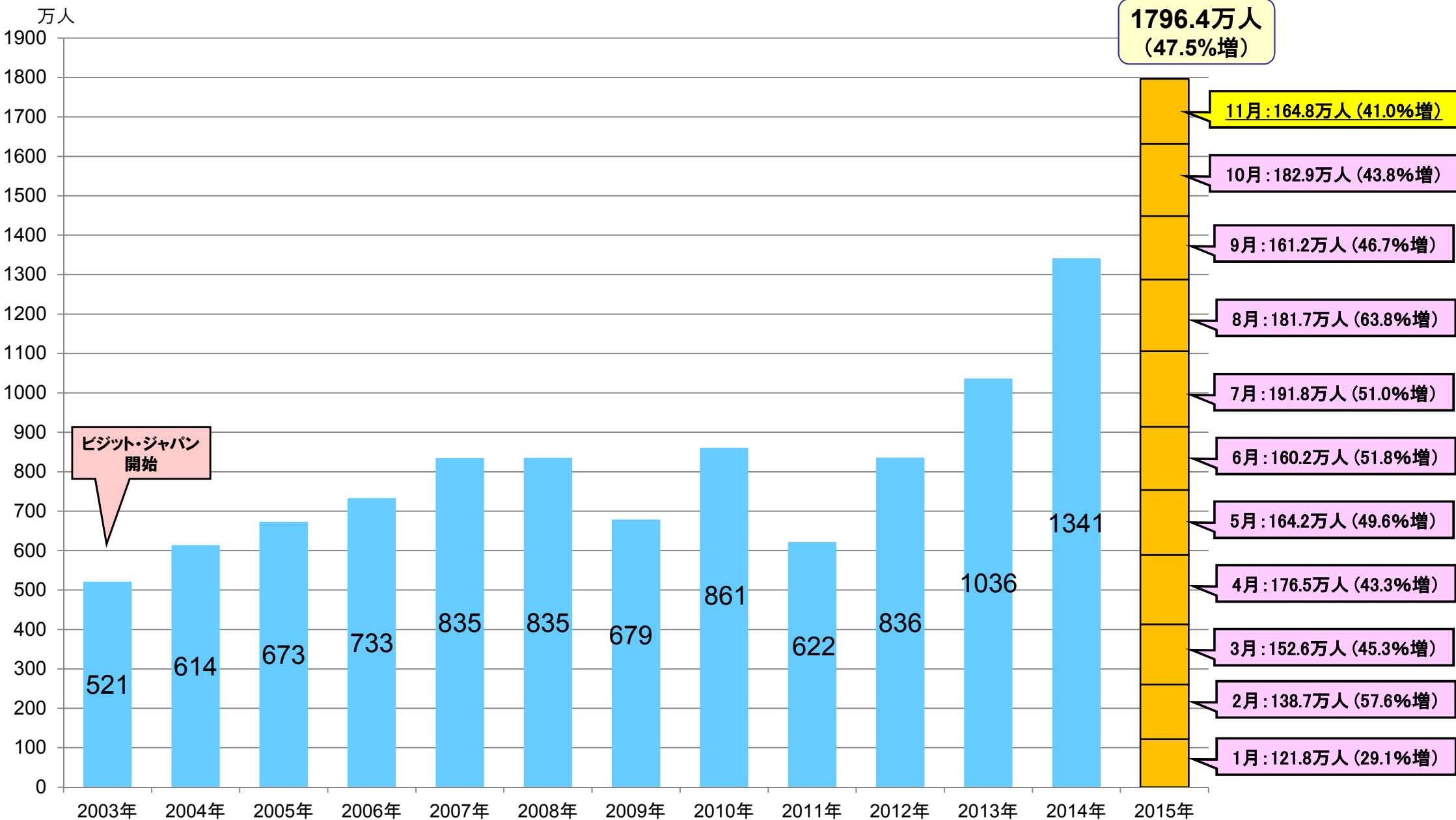


# 宿泊需給の状況について

---

# 訪日外国人旅行者数の推移



注) 2014年以前の値は確定値、2015年1月～9月の値は暫定値、2015年10月～11月の値は推計値、%は対前年(2014年)比  
出典: JNTO(日本政府観光局)

# 客室稼働率（平成27年7月・第2次速報値）

## 都道府県別客室稼働率

- : 90%以上
- : 80%以上

- 客室稼働率が90%を超えた都道府県は、
  - ・シティホテル 北海道
  - ・ビジネスホテル 東京都、大阪府
- 客室稼働率が80%を超えた都道府県は、
  - ・シティホテル 14都道府県（昨年7月：8都道府県）
  - ・ビジネスホテル 11都道府県（同：4都道府県）

	旅館		リゾートホテル		ビジネスホテル		シティホテル		簡易宿所	
	稼働率	数	稼働率	数	稼働率	数	稼働率	数	稼働率	数
全国	39.0	-	61.1	-	78.1	-	82.2	-	34.8	-
北海道	61.6	2	65.7	9	86.8	4	90.5	1	36.0	15
青森県	48.7	8	54.9	23	69.3	35	66.7	34	16.5	42
岩手県	43.2	12	37.4	45	77.9	13	72.3	27	35.2	16
宮城県	49.7	4	39.5	43	76.5	17	70.5	31	38.2	10
秋田県	34.4	28	42.7	37	65.1	42	70.3	32	23.6	31
山形県	33.6	29	41.5	40	77.5	15	74.0	25	30.2	19
福島県	38.1	20	47.9	32	81.7	10	84.0	8	19.1	37
茨城県	30.3	35	45.7	35	62.7	44	66.2	35	25.5	27
栃木県	40.4	15	57.4	21	68.2	37	64.9	37	20.4	36
群馬県	49.0	6	48.8	31	71.4	29	75.9	20	11.8	46
埼玉県	31.0	32	49.5	28	73.5	24	79.8	15	52.4	5
千葉県	40.2	16	84.8	2	73.8	21	83.1	11	36.3	14
東京都	70.4	1	84.4	3	93.2	1	86.0	4	65.9	1
神奈川県	38.3	19	49.4	29	83.0	6	83.0	12	43.1	8
新潟県	28.4	43	32.9	46	69.1	36	72.8	26	24.9	28
富山県	37.3	21	58.0	19	80.2	11	76.6	18	47.6	6
石川県	49.3	5	53.8	24	82.3	8	83.5	9	40.3	9
福井県	30.4	34	45.9	34	70.3	34	62.3	42	13.1	44
山梨県	48.1	9	61.5	14	73.8	21	74.9	23	27.8	22
長野県	28.3	44	41.3	41	75.0	19	72.2	28	12.8	45
岐阜県	38.6	18	50.2	27	75.6	18	69.3	33	26.9	24
静岡県	38.8	17	57.7	20	74.6	20	79.2	16	31.8	17
愛知県	36.4	23	59.5	16	81.8	9	85.7	5	57.0	4

	旅館		リゾートホテル		ビジネスホテル		シティホテル		簡易宿所	
	稼働率	数	稼働率	数	稼働率	数	稼働率	数	稼働率	数
三重県	29.0	40	53.1	25	70.4	32	71.0	29	6.1	47
滋賀県	35.5	25	66.1	8	77.5	15	74.7	24	27.8	22
京都府	50.4	3	45.5	36	87.2	3	86.1	3	45.5	7
大阪府	46.8	11	95.3	1	90.5	2	89.8	2	63.1	2
兵庫県	31.4	31	56.2	22	85.4	5	84.6	7	31.3	18
奈良県	30.1	36	81.3	5	71.9	27	75.0	22	29.3	21
和歌山県	42.0	13	61.6	13	71.1	31	76.2	19	21.3	33
鳥取県	36.3	24	28.4	47	72.0	26	81.3	14	26.7	25
島根県	30.6	33	49.3	30	78.3	12	64.3	39	36.6	13
岡山県	29.5	38	42.2	39	71.7	28	70.9	30	21.7	32
広島県	35.2	26	58.7	17	77.9	13	82.4	13	29.4	20
山口県	34.7	27	58.2	18	66.4	40	61.2	44	57.6	3
徳島県	30.1	36	51.2	26	70.4	32	64.4	38	16.6	40
香川県	27.2	46	61.7	12	65.5	41	62.2	43	15.7	43
愛媛県	48.8	7	46.8	33	61.0	45	66.1	36	24.5	29
高知県	29.3	39	40.9	42	58.5	47	63.7	41	24.3	30
福岡県	33.2	30	60.2	15	73.6	23	85.6	6	37.8	11
佐賀県	47.9	10	69.9	7	71.3	30	60.7	45	25.8	26
長崎県	40.9	14	78.2	6	72.3	25	75.2	21	17.4	38
熊本県	37.0	22	42.3	38	67.8	38	77.2	17	20.5	34
大分県	29.0	40	62.4	11	63.0	43	64.2	40	20.5	34
宮崎県	29.0	40	65.1	10	60.5	46	55.7	47	16.6	40
鹿児島県	27.8	45	37.9	44	66.9	39	60.6	46	16.8	39
沖縄県	25.5	47	81.8	4	82.4	7	83.2	10	37.8	11

# 主要空港における国際線発着便数と就航都市数について

空港名	都道府県名	国際線の発着便数／週	就航都市数
羽田	東京都	1412	25
成田	千葉県	2942	106
関空	大阪府	1069	73
中部	愛知県	830	40
新千歳	北海道	244	13
福岡	福岡県	622	22
沖縄	沖縄県	298	11
仙台	宮城県	24	5
静岡	静岡県	96	12
広島	広島県	84	7
高松	香川県	22	3
長崎	長崎県	10	2

※各空港サイトの情報(平成27年12月のダイヤ)及び地元自治体等への聞き取りによる

# 民間調査による宿泊需給予測の一例 (公表資料より)

$$\text{延べ宿泊者数} = \text{訪日外国人数} \times \text{平均都道府県訪問率}^* \times \text{1訪問地当たり滞在日数}$$

(2020年に2,500万人)

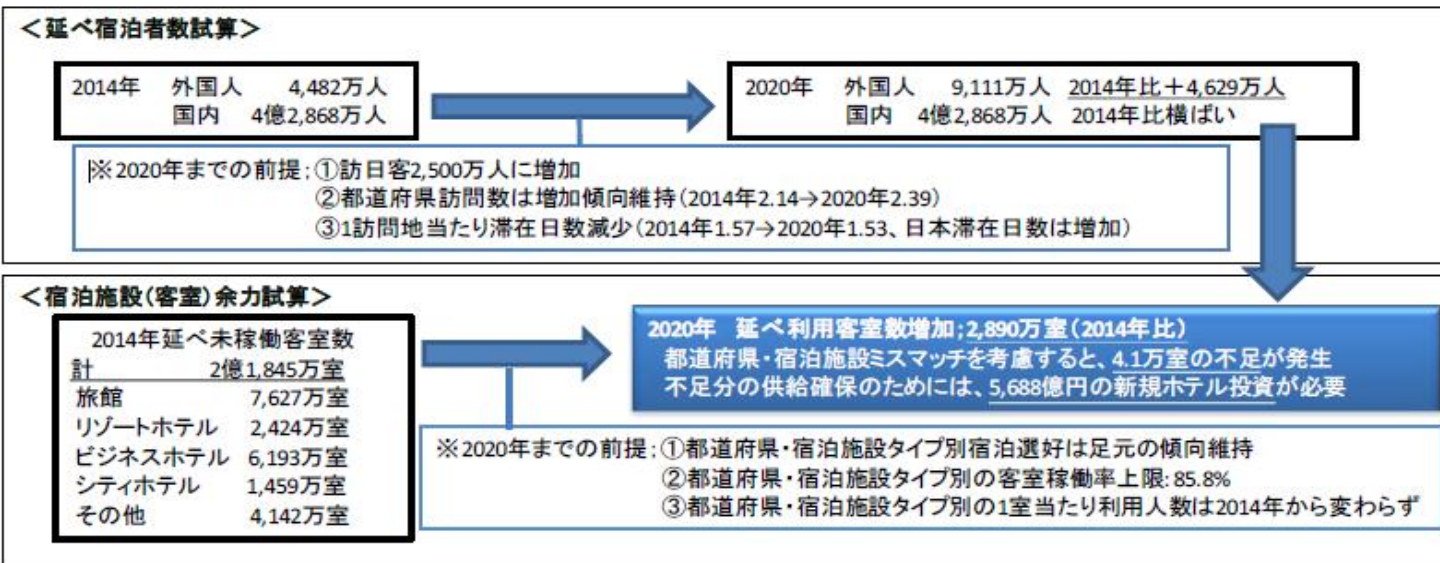
※ 宿泊を含まない訪問も含む。推計に当たっては、東京や大阪など予約が取りにくくなっている影響によって訪問率が一部歪む可能性を排除するため、「訪問外国人消費動向調査」(観光庁)に基づき、宿泊を伴わない訪問を含むベースの訪問率を用いている。

- 訪日客の都道府県訪問率については、東京、大阪、京都、神奈川が多い。このうち、今後も増加が見込まれる観光・レジャー目的の訪日客は、ビジネス目的の訪日客より訪問地が多く平均訪問率が高いため、訪問率は上昇すると設定。
- 1訪問地当たり平均滞在日数は、平均訪問数の増加に伴い、緩やかに減少すると設定。
- 各都道府県における宿泊施設タイプ別の訪日客の選好は大きく変わらないものの、観光・レジャー目的の訪問客の増加により、旅館利用率がやや上昇すると設定。
- 宿泊施設の客室稼働率の上限は、2014年の稼働率の最高値85.8%で設定。

2020年訪問客数2,500万人の場合における、それまでのホテルオープン計画と追加必要客室数

	追加必要客室数 (a)	ホテルオープン計画(客室数) (b)	過不足 (b-a)
北海道	0	1548	1,548
東北	0	1360	1,360
関東	2,418	4519	2,101
東京	13,843	9549	▲ 4,294
甲信越北陸	18	1206	1,188
東海中部	40	2779	2,739
近畿	23,476	3765	▲ 19,711
中国	290	1072	782
四国	0	862	862
九州	860	1008	148
沖縄	374	3393	3,019
全国計	41,319	31,061	▲ 10,258

宿泊施設不足の試算フロー



(注) 追加必要客室数はみずほ総合研究所試算値、宿泊施設新・増設計画は「週刊ホテルレストラン」調べ。

(資料) オータパブリケーションズ「週刊ホテルレストラン」、みずほ総合研究所



# 民間金融機関による宿泊需給予測の一例 (公表資料より)

## 予測の前提条件

1. 日本人（国内旅行者）の東京における宿泊需要（延べ数）は、就業者数の減少、人口減少により、国内ビジネス目的、観光目的ともに減少すると設定。
2. 訪日外国人の東京における宿泊需要（延べ数）は、世界観光機関による北東アジア（日本を含む）への外国人旅行者数の伸びと同じ伸び率〔ケースA〕と、政府目標2020年に2千万人まで増加する〔ケースB〕の2通りを設定。
3. ホテル・旅館の客室数の供給予測は、過去5年（2008～2012年）平均の客室増加率（1,798室／年）が続くと設定。

## 2015年の現状との比較

・訪日外国人は、2015年に1,900万人台に達する見通しであり、2020年は政府目標の2千万人より増える可能性がある。

・ケースBの2020年の訪日外国人2千万人の場合には、東京で372万人泊（一日当たり10,192万人泊）の不足になるという試算結果となっている。

東京の宿泊需給の将来予測

	区分	2012年比OR予測成長		12年比増減実数		結果実数		推計根拠	
		2020年	2030年	2020年	2030年	2020年	2030年		
需要	国内	ビジネス宿泊	▲6.4%	▲15.3%	▲172万人泊	▲409万人泊	2,504万人泊	2,266万人泊	20、30年の人口予測値に2012年の年代別就業率を反映し将来年代別就業者数を計算。ビジネス宿泊需要も2012年比就業者数減少率と同様レベルの減少をすると予想し算出(前出図表5-3参照)
		観光宿泊	▲3.1%	▲11.4%	▲41万人泊	▲149万人泊	1,266万人泊	1,158万人泊	2012年の(年代別一人当たり平均年間旅行宿泊日数)×(20、30年の人口予測値)から全体観光宿泊需要を計算。東京の観光宿泊需要も12年比全体観光宿泊需要減少率と同様の幅で減少すると予想し算出
	外国人 訪日	ケースA	+5.7%/年	+4.2%/年	+862万人泊	+1,407万人泊	1,464万人泊	2,209万人泊	UNWTOのアジアにおける来客数成長率と同様の成長をすると予測、国別構成比、宿泊人数は現状水準と仮定し算出
		ケースB	2,000万人	3,000万人	+1,114万人泊	+2,073万人泊	1,916万人泊	2,875万人泊	政府目標をベースに、国別構成比、宿泊日数は2012年水準を前提に算出
	合計	ケースA	-	-	+450万人泊	+848万人泊	-	-	
		ケースB	-	-	+903万人泊	+1,514万人泊	-	-	
供給			-	-	+531万人泊	+1,194万人泊	-	-	客室数は過去5年平均1,798室/年増加、稼働は76%、平均客数/室は1.33と2012年並み
過不足	ケースA	-	-	+81万人泊	+346万人泊	-	-		
	ケースB	-	-	▲372万人泊	▲320万人泊	-	-		